

教科	科目
国語	総合表現技術
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次自由選択(C)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限…20人

学習内容等

科目の目標… 国語を的確に理解したり、伝え合う力を高めるための言語感覚を磨く。また、社会生活に役立つ表現力や態度を身につける。

授業形態… 一斉授業・グループ学習・発表

年間授業計画	
4月 ↓ 6月	【視写、聴写、メモ、絵を言葉にする】 書くことに慣れ、メモを的確にとる力を身につける。 【発声・発音、文字を声に変える】 適切な早さ・音量で話す力を身につける。
6月 ↓ 9月	【スピーチ原稿を書く・発表】 簡潔、適切な構成で原稿を書き、発表する。 【文章表現/面接に関する学習】 作文を書くこと、公的に話すことを体験する。
10月 ↓ 12月	【言葉遊びと創作】 自分だけの四字熟語、慣用句などを作る。 【ことばと性質(言葉の性質・由来)】 言葉の役割や歴史を理解する。
1月 ↓ 3月	【自己との対話(自分史の作成)】 自分の経験を的確に捉えて表現する。また、将来の生活を見通し、表現する。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	国語に対する関心を深め、進んで表現するとともに、伝え合おうとする。 出席状況、授業への取り組み
思考・判断・表現	目的や場面に応じて適切な言葉遣いを判断し、表現することができる。 定期考査、小テスト、課題
技能	自分の考えをまとめたりして、目的や場面に応じて話したり聞いたり書いたりできる。 定期考査、小テスト、課題
知識・理解	表現と理解に役立つための音声、文法、表記語句、漢字を理解し、知識を身につけている。 定期考査、小テスト、課題

考査点と平常点の割合

考査:6割 平常点:4割

使用教材等

教科書…なし
副教材…教育出版『国語表現』
経費…ファイル代

進路・資格等

卒業後の進路…どのような進路に対しても必要となる力を身につける教科です。

関連資格…特になし

教科	科目
公民	政治・経済
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次自由選択(C)(D)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限…特になし

学習内容等

科目の目標… 現代における政治・経済・国際関係についてどのような問題があるかを知り、その問題について背景や解決方法を考えることを通じて、現代社会の一員として生きていく力を身につける。

授業形態… 一斉授業

年間授業計画	
4月 ↓ 6月	民主主義、日本国憲法と人権、日本の政治制度について学び、日本の政治への関心を高め、民主社会の一員として生きる態度を身につける。
6月 ↓ 9月	国際法、国連、冷戦、平和主義などについて学び、国際社会に生きる日本人としての自覚を養う。
10月 ↓ 12月	日本や世界の経済の仕組みを学び、経済への関心を高め、社会の動きを経済的な側面から理解できるようにする。
12月 ↓ 3月	国際経済及び現代社会の課題(少子高齢化、雇用、地域社会問題など)を学び、課題解決のために必要なことを考える。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	現代の政治・経済・国際関係に対する関心を持ち、意欲的に授業や課題に取り組んでいる。 出席状況、授業への取り組み、ノート
思考・判断・表現	現代の政治・経済・国際関係の諸問題解決のために何が必要か考えわかりやすく説明している。 定期考査、レポート、ノート
資料活用の技能	統計やグラフなどの資料を使って現代の政治・経済・国際関係に関する情報を収集活用している。 定期考査、資料の読み取り
知識・理解	現代の政治・経済・国際関係についての基本的な事柄を理解している。 定期考査、小テスト

考査点と平常点の割合

考査:7割 平常点:3割

使用教材等

教科書…実教出版『最新政治・経済』

進路・資格等

卒業後の進路…公務員試験志望者、教養を身につけたい者に勧める。

関連資格…特になし

教科	科目
数学	数学Ⅱ
単位数	必修・選択(枠)
4単位	2年次自由選択(CD)

履修条件等

履修条件等… 3年次で「数学B」を選択する場合は必ず履修すること。

人数制限… 特になし

学習内容等

科目の目標… 数学Ⅰの内容を発展・拡充した内容を学習する。基本的な知識と技能を身に付け、事象を数学的に考察し表現する力を養うとともに、それらを活用する態度を身に付ける。

授業形態… 一斉授業

年間授業計画	
4月	複素数と方程式
5月	整式の四則計算について理解する。数の範囲を複素数まで拡張することで、2次方程式、高次方程式が解けるようになる。
6月	図形と方程式
7月	座標や式を用いて平面図形の性質や関係を数学的に表現し、事象の考察に活用できるようになる。
8月	いろいろな関数
9月	三角関数、指数関数、対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようになる。
10月	微分と積分
11月	微分・積分の考えを理解し、それらを用いて事象の考察に活用できるようになる。
12月	
1月	
2月	
3月	

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	関心をもつとともに、事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 出席、授業への取り組み、ノート
数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、試行の過程を振り返ることができる。 授業への取り組み、ノート
数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 定期考査、小テスト
知識・理解	基本的な概念・原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。 定期考査、小テスト

考査点と平常点の割合

考査:7割 平常点:3割

使用教材等

教科書…実教出版「高校数学Ⅱ」
副教材…実教出版「アクセスノート 数学Ⅱ」

進路・資格等

卒業後の進路…大学進学(特に理工系)や看護学校への進学を考えている者は履修することが望ましい。

関連資格…特になし

教科	科目
理科	科学と人間生活
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次自由選択(C)

履修条件等

履修条件等… 特になし

人数制限… 32人

学習内容等

科目の目標… 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事象・現象に関する観察、実験などを通じて理解し、科学的な思考や興味を身につける。

授業形態… 一斉授業、実験、実習

年間授業計画	
4月	植物の育成、動物の行動及びヒトの視覚と光とのかかわりについて学習する。様々な微生物の存在と生態系での働き、微生物と人間生活とのかかわりについて学習する。
5月	
6月	身近な材料であるプラスチックや金属の種類、性質及び用途と資源の再利用について学習する。身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について理解する。
7月	
8月	
9月	
10月	光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解する。熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について理解する。
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	太陽や月などの身近に見られる天体と人間生活とのかかわり、太陽系における地球について理解する。身近な自然景観の成り立ちと自然災害について学ぶ。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	身近な自然科学に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらを学ぼうとしている。 出席、授業への取り組み、レポート、授業プリント
思考・判断・表現	自然環境中の問題を把握し、探求する過程を通じて、事象を科学的に思考することができる。 定期考査、レポート、授業プリント
技能	観察実験を通じて基本的操作を習得するとともに、その結果や過程を的確に記録整理できる。 実験、観察の取り組み、実験レポート
知識・理解	身近な自然科学について、基本的な原理・法則を理解し、その知識を身に付けている。 定期考査、レポート、授業プリント

考査点と平常点の割合

考査:7割 平常点:3割

使用教材等

教科書…未定
経費…ファイル代

進路・資格等

卒業後の進路…特になし

関連資格…特になし

教科	科目
商業	情報処理
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次自由選択(C)

教科	科目
国語	時事国語
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次自由選択(D)

履修条件等

履修条件等…特になし

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限… 20人

学習内容等

科目の目標… 表計算ソフトである Excel を中心としたコンピュータの知識・技術を習得し、実社会で活動できる能力と態度を身につける。

人数制限… 特になし

学習内容等

科目の目標… 新聞などで用いられる語彙・表現などを学ぶとともに読解力を養う。また現代社会への関心を高め、時事問題に対し自らの意見を持ち、それを適切に表現できる力を養う。

授業形態… 一斉授業・演習

年間授業計画	
4月 ↓ 6月	コンピュータに関する知識 ビジネスと情報処理
6月 ↓ 9月	表計算ソフト活用の基礎Ⅰ SUM・MAX・MIN・IF 関数などの理解問題集から抜粋した問題をこなすこと によってビジネスの諸活動において、情報を扱う者の 役割や責任について考えさせる。
10月 ↓ 12月	表計算ソフト活用の基礎Ⅱ 後期より習熟度別学習を展開してより細やかな学 習が出来るように展開する。
12月 ↓ 3月	表計算ソフトExcelによる応用演習 表計算ソフトの各種の関数や機能を活用して、ビジネスに 関する情報を処理・分析した結果を表現する方法及び統計 よりの基礎的な方法を扱う。 データベースソフトの活用の基礎

授業形態… 一斉授業・演習

年間授業計画	
4月 ↓ 6月	○新聞等を読み、中学校で学ぶ漢字・語彙を中心に 学習し、新聞を読む習慣を養成する。 ○時事問題を簡潔に要約し、教養を深める。
6月 ↓ 9月	○新聞等を読み、高校で学ぶ漢字・語彙を中心に学 習し、新聞を読む習慣を養成する。 ○時事問題に触れ、自分の考えを書いて表現する。
10月 ↓ 12月	○漢検準2級の漢字・語彙力を身につける。 ○時事問題に触れ、自分の考えを話して伝え、問題 に対する意見文を適切な構成で書く。
1月 ↓ 3月	○漢検2級の漢字・語彙力を身につける。 ○時事問題に触れ、適切な構成で書いたり話したりす る。また、問題について小論文を書く。

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	パソコンに興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り 組む。 出席・授業への取り組み
思考・判断・表現	実社会に出て活躍できるようにその場に応じた情 報の収集・処理・分析が出来る。 プリント・演習・小テスト
技能	事象の問題解決に結びつくように応用力を身に つける。 教科書の例題・過去問題演習
知識・理解	基本的な操作を理解して知識を身につける。 プリント・演習・小テスト

観点別評価規準・評価項目	
関心・意欲・態度	現代社会に関心を持ち、新聞記事を通して語彙 や表現を学ぼうとする。 授業への取り組み、プリント
思考・判断・表現	時事問題に対して自分の考えを持ち、それを文 章で表現することができる。 授業への取り組み、プリント
技能	時事問題に対しての自分の考えを持つことがで きる。 定期考査、プリント
知識・理解	これまで学習した知識と時事問題を統合し、新た な知識として身につけることができる。 定期考査、プリント

考査点と平常点の割合

考査:6割(授業内で実施)
平常点:4割(出席・態度・意欲・身だしなみ等)

考査点と平常点の割合

考査:6割 平常点:4割

使用教材等

教科書…実教出版『情報処理新訂版』
副教材…全商情報処理検定(模擬問題集)

使用教材等

教科書…なし
副教材…プリント(演習プリントと、新聞記事をコピーしたプリント)

進路・資格等

卒業後の進路…一般事務・販売職・営業職 等

進路・資格等

卒業後の進路…一般就職・公務員、及び小論文や作文を
課せられる学校への進学を希望する者

関連資格…全商情報処理検定 3級 2級

関連資格…特になし

教科	科目
家庭	服飾手芸
単位数	必履修・選択(枠)
2単位	2年次自由選択(D)

教科	科目
工業	情報技術基礎
単位数	必履修・選択(枠)
2単位	2年次自由選択(D)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限…20人

学習内容等

科目の目標…手芸の種類、特徴や技法などに関する知識や技術を習得し、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を身につける。

授業形態…一斉授業・実習

年間授業計画	
4月 5 7月	・手芸の種類と特徴について学ぶ。 ・刺し子について学び、作品を制作する。
8月 9月	・パッチワークについて学び、作品を制作する。 ・染色の種類と技法について学び、作品を制作する。
10月 12月	・刺しゅうの種類と技法について学び、フランス刺しゅう、スウェーデン刺しゅうの作品を制作する。
1月 3月	・編物について学び、かぎ針編みの作品を制作する。

履修条件等

履修条件等…[産業情報系列 工業]を選択していることが望ましい

人数制限…12人

学習内容等

科目の目標…社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解し、情報及び情報手段を活用する能力と態度を身につける。

授業形態…一斉授業・実習

年間授業計画	
4月 6月	情報技術検定3級の合格を目指して、現代社会とコンピュータ、コンピュータの基本動作等について学習する。
6月 9月	制御プログラミング(BASIC)について学習し、プログラミング、フローチャート、等の技術を身につけ、テストで点が取れるよう学習する。
10月 12月	ハードウェアについて学習し、コンピュータの構成や仕組み、装置の役割などについて学習し、コンピュータの基礎知識を身につける。
12月 3月	データ通信・マルチメディア・コンピュータ制御・コンピュータの歴史と活用・情報の管理等について学習し、コンピュータについて幅広い知識を身につける。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	様々な手芸の種類、特徴や技法などに関心をもち、創意工夫しながら手芸品を意欲的に制作する。 出席状況、作品製作への取り組み、記録カード
思考・判断・表現	手芸の種類、特徴や技法などに関する知識や技術を活かし、手芸品を創造的に制作する。 記録カード、評価カード
技能	手芸に関する基本的な技術を習得し、手芸品を制作する。 作品提出
知識・理解	手芸の種類、特徴や技法などに関する知識を習得し、手芸品を創造的に制作しようとする。 小テスト、課題提出

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	情報に興味・関心を持ち、意欲的かつ誠実な態度で授業に臨む。 出席、授業への取り組み
思考・判断・表現	情報技術のルールに則ってフローチャートやプログラムなどを用いて表現することができる。 定期考査、小テスト、授業プリント
技能	事象の問題解決に結びつくように応用力を身につける。 授業への取り組み
知識・理解	基本的な操作を理解して知識を身につける。 プリント、演習、テスト

考查点と平常点の割合

小テスト:2割 平常点:8割(作品,出席状況,態度,意欲)

考查点と平常点の割合

考査:7割 平常点:3割

使用教材等

副教材…学校作成教材(プリント)
経費…材料費として6,000円を徴収する。

使用教材等

教科書…実教出版『精選 情報技術基礎新訂版』
副教材…プリント

進路・資格等

卒業後の進路…特になし

関連資格…特になし

進路・資格等

卒業後の進路…電子・情報系への進学・就職を希望する者に勧める。

関連資格…情報技術検定3級